

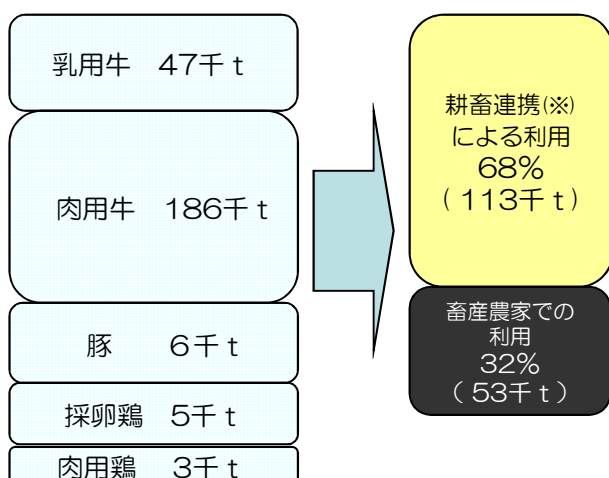
家畜ふん堆肥の生産と利用

家畜排せつ物は、専用の施設において処理され、そのほとんどが堆肥となります。生産された堆肥は、県内の水稲や野菜、飼料作物などの生産に、有機質資源として活用されています。

今後も、より良質な堆肥づくりの指導や、耕種農家等への利用PRを行うことにより、家畜ふん堆肥の利用促進を図ります。

(1) 家畜ふん堆肥の生産量および堆肥利用量

家畜ふん尿発生量 260千t 堆肥利用状況 166千t



年度	家畜ふん尿発生量 (千t/年)	堆肥量 (千t/年)	耕畜連携による利用率 (%)
平成24	261	178	66
25	258	176	67
26	259	176	67
27	243	165	70
28	252	171	72
29	257	175	72
30	259	161	71
令和元	260	177	71
2	250	167	68

※上記図は令和2年7月2日～令和3年7月1日の期間の家畜ふん尿発生量、および堆肥利用状況を表す。

※耕畜連携：畜産農家から耕種農家への堆肥の供給、逆に耕種農家が転作田等で飼料作物を生産し、畜産農家への家畜飼料の供給など、耕種サイドと畜産サイドが連携を図ること。

(資料：県畜産課調べ)

(調査対象期間：毎年7月2日～7月1日)



専用機械（マニユアスプレッダー）による堆肥散布



発酵堆肥化施設